

珠海に見る” 一国だけの航空兵器ショー”

漢和防務評論 20190209(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

珠海航空ショーを見ると中国の軍事工業の現状が分かる、との視点から中国軍事工業を批判的に見た記事です。

珠海航空ショーでは、KDR 編集長が展示ブースに接近すると、説明員が広報用テレビの電源を切り、配布用パンフレットを隠すそうです。いやがらせかもしれません。

米中の貿易戦争の微妙な影響もあり、西側航空機製造会社は展示機を出しませんでした。ロシアもパキスタンも戦闘機を展示しませんでした。

平可夫

今年の珠海航空ショーはどのような問題があったか？

それは書ききれないほどある！珠海航空ショーは典型的な一国だけの航空兵器ショーであった。このような航空ショーを見たのは初めてだ。パキスタンだけでなく、ロシアさえも如何なる戦闘機も参加させなかった。しかも主要な軍事企業の幹部は誰も来場しなかった。

一般的に言えば、国際航空ショーは軍民両用である。近年来、パリ、英国、ベルリン航空ショーでの民用航空機、特に民間旅客機の占める比率は 50%を超え、売り込みはますます激化している。典型的な民間旅客機は A-350、ボーイング 787-9、A-380 等々である。しかしこれらの航空機は、今回の珠海航空ショーには 1 機も参加しなかった。なぜか？

この背後には、中米貿易戦争の微妙な現状を見ることができる。まず第一に、ボーイング社のような大会社は基本的に中国の利益集団に属し、貿易戦争の拡大に反対するはずである。今回表面的には珠海航空ショーに参加しており、実際に航空機を展示することになっていたが、しかしそれはしなかった。

業界の人々は次のように述べた

：中国の米国国会、商業界における広報活動は成功したとは言えない。ボーイング等の大会社は、同社が貿易戦争で中国側に立っていると思われるのを望まない。米国を訪問した中国人は、この 2 年間ではっきり感じ取ることができた

：米国の普通の人々の中国に対する姿勢が大きく変化している。各種会社は中国に技術が漏れるのを厳しく警戒している、と。

ここで読者にある秘密を教えたい

：中国出身の科学者は、米国の大きな会社のハイテク開発部門へ入る際の審査が以前に比べて極めて厳しくなった。優秀な人材は当然重用される。これが米国の偉大な点である。ただし会社に入る際も、開発重点事業から離れる際も、何度

も守秘義務の誓約書に署名させられる。”違反した場合は刑事責任が追及される”と。

次に、今回の貿易戦争の初期には、中国の技術窃取の対象は、カナダ、欧州であり、特にドイツ、フランスが重点対象であった。中国は、ドイツ、フランスと聯合して米国の貿易覇権に反対しようとした。しかし今回エアバス社は珠海航空ショーに 1 機の民航機も参加させず、中国に対する欧州の姿勢を示すことになった。2016 年の珠海航空ショーでは、A-350、ボーイング 787-9 を積極的に広報していた。第 2 回珠海航空ショーから、ボーイング社、エアバス社は、何度も地上展示機を派遣し、或いは飛行展示も行った。

読者は、業界の人々がどのように見ているかご存じであろうか？

本来、珠海航空ショーの位置づけは”国際航空ショー”である。上述のごとく、”国際航空ショー”の普遍的な解釈は：軍民両用である。しかも例え軍用機の展示が制限を受けたとしても、その他の民用機の参加は制限を受けない、としている。

典型的な例は、ロシアである。ウクライナ問題でロシアが西側から制裁を受けた後、パリ、ロンドンの国際航空ショーではロシア軍用機の参加が禁止された。或いは軍用機の写真を展示することも禁止された。しかしロシアの民用機の参加は制限されず、当然歓迎された。

この点に関し問題がなかった”珠海国際航空ショー”は、一群の”聡明な人々”によって位置づけが変更され、”珠海国際兵器ショー”になった。戦闘機や戦車が同時に轟音を出した。現在のような大きな反中国の潮流が存在する中で、大型航空機製造会社が”兵器ショー”などに民航機を参加させるであろうか？国際的にも例がない。ボーイング社内部にこのような意見が出現したという。

推測出来ることは

：今後、珠海兵器ショーは同様の問題に遭遇する。KDR は次のように解釈している

：中国人の外部世界に対する認識は、極めて素朴である。彼らは、根本的に真の外部世界を知ろうとしない。確かに”聡明過ぎる”のだ。

次にロシアを見てみよう。別の記事で、INF 条約問題でのロシアと米国の関係を分析した。實際上、ロシアは西側国家との関係を改善したがっている。まず最初に欧州で、次に米国との全ての関係を改善しようとしている。これはモスクワの切実な願望である。問題は現在米国側にある。トランプ自身がロシアに好感を持っていることは、大統領選挙中の言論から証明されている。彼は、いわゆる”ロシアが米国大統領選挙に介入した事件”が政客に利用されるとは思わなかった。特に議会において。したがってトランプ内閣はモスクワと距離を置かざるを得なくなった。

周知のとおり、ロシアは、第 1 回珠海航空ショーから唯一戦闘機を参加させた国である。SU-30MKK、MIG-29、SU-27、SU-35 がすべて参加した。KA-50

も参加したことがある。しかし今回は戦闘機を参加させず、しかもロシアの軍事代表団の代表も指導者級の総裁ではなかった。問題はないのか？

ロシアはすでに多くの場所で欧米に告げている

：ロシアは紛れもなく中国の同盟国である。軍事貿易は純粋な商業行為である、と。

現在、中露間で行われている軍事貿易品目は S-400 と SU-35 のみである。ロシアは確かに中国が第 2 グループの SU-35 を買ってくれることを希望しているが、珠海航空ショーでは進展がなかった。KDR が掌握した最新状況によると、依然としてエンジンの輸出が問題になっている。細部は説明できない。KDR は理解している。

珠海兵器ショーの主な装備品を見ると分かる。

C/SA-15 から J-10B まで、TVC によって展示した”眼鏡蛇”機動は、ロシアの色彩がなかったか？

航空機の機動さえもロシア軍方式を踏襲していた。”落葉飄”も”プガチェフ機動”も同じ。1992 年のモスクワ航空ショーから、SU-27、SU-30、SU-35、MIG-29 が毎回展示していた。中国空軍は、航空機の機動ですら独創性を発揮できないのか？

實際上、高い推力重量比を具備した F-16 BLOCK60 は理論上”プガチェフ機動”を行える能力がある。なぜ西側戦闘機は従来から航空ショーで類似の機動飛行を行わないのか？

それは理念が違うためである！

欧米は類似の機動飛行は実戦的意義がないと考えている。KDR は、武器を搭載したロシア戦闘機が類似の機動飛行を行ったのを見たことがない。

このような理由から、現在ロシア及び欧米は、徹底して中国の技術窃取を防止するようになった。兵器の展示品は当然出さない。SU-35 を初めて展示した当時、ロシア人は 24 時間看守を付けた。

パリ、ロンドン等、各地で開催される兵器展示会では、多くの展示スペースに中国人が接近するのを謝絶した。まず最初に身分証明書を確認し、その後監視人を張り付けた。

本誌と珠海航空ショーの関係を話したい。周知の通り、本誌編集長は温和な性格だ。政治的に真の共産主義思想に反対はせず、社会主義思想の学習者、読者でもある。現在も変わらない。現在全世界で起きている各種の新たな問題に対して、或いはマルクスの一部の理論が古くないのかもしれない、と考えている。しかし当然編集長は共産主義者ではない。

したがって本誌は、以前から如何なる人の意見にも反対せず、武器装備の分析においては、事実のみを認めた。1998 年の珠海航空ショーで、航空ショーの主管部門が本誌編集長を探し出し、カナダ空軍の飛行隊を珠海航空ショーに紹介して欲しいと依頼した。報酬は出す、と。編集長は次のように述べた：報酬はいらない。帰国したら即刻連絡が採れるようにしたい、と。

女性社長：貴方の報酬は 3000 米ドル以上になる。

平可夫：お金はいらない。

女性社長：貴方に珠海で最高級の五つ星ホテル” 国会ホテル” を準備する。

カナダ空軍は珠海航空ショーへの参加を謝絶し、編集長の斡旋の下、カナダの民間のアクロバットチームが同年の航空ショーに参加できないか探った。わずかな謝礼金などは不要だ。

珠海航空ショーが如何に KDR を敵視しているか見て欲しい。2000 年以降である。編集長が見学に向かうと、展示ブースの説明者は、ひそひそと話し合い、宣伝用テレビのスイッチを切り、説明用パンフレットを隠す。2002 年の航空ショーの第 2 日には中央スクリーンが真っ黒になり、まくし立てる宣伝文句は全く消えた。初日からついてなかった。声が大きければワシントンでも聞こえるほどだった。

巨大なスクリーンの下で民工とみられる一群の人々が眠っていた。ズボンのホックがはだけていた。一部は真っ暗な中で寝ていた。元々エアコンは天井に取付けられている。本誌は航空ショーの最後の日まで滞在した。全世界で最も華やかな航空ショーであると宣伝するが、展示室内は弁当、飲料水が散らかり、睡眠を採る人々がいた。これはマイナスのイメージだ。本誌は、これは報道していない。

問：巨大スクリーンでの宣伝映画はないのか？

新人の説明員：保衛部が撤去しました。

問：なぜ？

説明員：昨日、なんとかスキーというソ連人が来て、数時間ここに留まっていた。あの戦闘機の画面（J-10）が 0.001 秒間、映し出されたが子供に盗み撮りされた。ネット上で騒ぎになっている。（私は当日夜、確かに写真をネット上にアップした）

その後、ますますギクシャクするようになった。編集長が質問すると、声がマイクロフォンを通じて放送されるようになり、あるときは相手側さえ不思議に感じた。後ろを見ると、周囲には誰もいなかったのだ。

編集長の健康は問題ないか？

パリ、モスクワ航空ショーと毎日駆け回っている。根本的に疲れを感じない。しかもますます興味を感じている。疲れを感じるのは帰ってからだ。しかしここ数回の珠海航空ショーは、しばしば頭痛と倦怠を感じる。翌日になると、起床したくないときがある。

帰国後、カナダの民間安全専門家は

：もう珠海に行く必要はない。

彼らは貴方を逮捕しようとしている。証拠を集めているのだ、と述べた。

中国人は、外部世界の人間と友好的な関係を結べるだろうか？

どんな人と結べるか？

証拠って何？

スパイか？

私は 11 歳からスパイの世界の物語を熟読した。スパイには興味がない。必要もない。経済上も、政治的にも、信仰上も従来から興味がなかった。だから私は中国の如何なる場所にも行く意思がある。

ある点だけは明確にしておきたい。西側メディアは、社会主義国家の党政ニュース機関ではない。いつでもスパイを派遣することができる。競争は高度に激烈で、このようなスパイスキャンダルが発生すると同類のメディアは絶対にこれを利用する。当時、私は、Janes 社に雇われていた。第 1 日目に契約書に署名した。契約書の書面には秘密保全条例と他国の情報機関との協力を禁止する条文が書かれていた。事故が起きれば自己責任であり、会社とは無関係である、と。

再び珠海航空ショーを振り返ってみる。2 年に 1 回開催される。この 2 年間は、軍事技術発展から見ると、相当短い。しかし中国は、2 年毎に新技術を提示している。” 一国だけの兵器ショー” これに尽きる。新時代の大型輸送機、準次世代戦闘機、巡航ミサイル、TVC 技術等。

今回のスターは、当然 J-10B の TVC 技術である。構造上は、材料がロシアや米国に劣っていることが分かる。したがって可変動の範囲、角度は狭く、機動性が制約を受ける。しかし世界でわずか 3 ヶ国だけがこのようなエンジンを生産することができる。

各種の無人機技術は 2 年毎に新たな方式を提示している。この点はロシアよりも進んでいる。

問題は、KDR の観察によると、多くの模型が本物ではない。

厳しい風洞試験を行ったのか？

計算したのか？

コンピューターを利用しているか、

これが疑問である。一部の会社は明らかに知名度を上げるためにだけ出品している。

例えば、F-22 に酷似している戦闘機の模型は、ステルスについて説明している。開発した会社は無名の小さな会社である。

このような大型技術は、彼らが請け負えるのか？

B-2 戦略爆撃機のステルス材料のコストは航空機価格の 30 乃至 40%を占めている。一般の会社が受けられるレベルではない。

多くの武器の模型も同様である。

実際に投下したのか、発射試験を行ったのか？疑問である。

試験のビデオ映像はあるのか？

国際的に厳格姿勢で参加する欧米の武器製造会社は、一旦国際展でミサイル模型を展示すると、翌日には輸出できる。たとえ少ない概念展示品であっても、説明はしっかりしている。

珠海航空ショーは、中国の現状を真摯に考えさせる窓口となっている。

以上